

真岡市読書活動推進計画2025-2029（案）に対する意見

1. 意見書の提出者：3名
2. 提案総数：3項目
3. 意見等の概要と市の考え方

No.	ページ	計画内容等	提出された意見提言等の内容	回答	修正の有無
1	10, 22	第3章 計画の基本的な考え方	第3章計画の基本的な考え方の中の3施策の体系で、P10の基本方針3の「2他市図書館等との連携」とありますが、芳賀町や茂木町等の図書館との連携も考え、「町」も入るとよいと思います。P22も同様。大変素晴らしい「真岡市読書活動推進計画」ができ上がったと思います。ありがとうございます。	「町」を追記し、「他市町図書館等との連携」に修正します。	修正有
2	全体	全体	提示されている「真岡市読書活動推進計画2025-2029（案）」の中に、読書の重要性、意義についての言及がないと思われます。 真岡市子どもの読書活動推進計画（第三期）では、序文としての「はじめに」があり、計画策定の意義、読書という行為の重要性に言及されています。 又「栃木県読書活動推進計画2024～2030」では、「第1章計画の趣旨・1 計画の目的」に、「読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きていくために欠かすことのできないものであり、」とあります。 本計画においても何処かで言及すべきと思います。	計画書1ページの、12～14行で意義について触れております。	修正無
3	13, 16, 18	第4章 読書活動推進のための施策	真岡市内の小学校に勤務する学校司書の立場から、意見を述べさせていただきます。 〈小・中学生期における読書活動の推進〉について ○各校の学校図書館司書教諭は、学級担任や他の校務分掌を担っているため大変多忙で、なかなか業務に専念できないのが実情です。 ○学校司書も4～5校を兼任しており、週1、2日の勤務では、やりたいことを十分にやりきることができません。残業や持ち帰り、図書ボランティアへの委託でなんとかのりきっているのが現状です。 ○図書ボランティアについては、学校によって差はありますが、コロナ禍を機に減少しているところが多いです。 〈学校における環境整備〉について ○「学習活動に応じた資料」は高額なものが多く、現在の図書予算では、十分要望にそうことができません。また、児童に人気の読み物を購入できない年度もあります。 ○学校図書館での調べ学習の際には、児童が資料を探すためにサポートが不可欠です。多様なニーズに応じるためには、複数の教員や学校司書の存在が必要となります。 →いつ行っても心地よく、児童生徒が魅力的だと思える学校図書館を本気で実現しようとするなら、 <u>司書の増員や各校の図書予算の拡充が不可欠であると考えます。</u> 〈複合交流拠点施設「monaca」における読書活動の推進〉について 各校で年度初めにオリエンテーションを行った際に、「真岡市立図書館の貸出カードを持っているか」とたずねると、どの学年も半分以上の児童が自分のカードを持っていませんでした。 →市内の全小中学生に、市立図書館の貸出カードを配布してはどうでしょうか。（那須塩原市図書館「みるる」では実施されたそうです）	学校司書の増員について、教職員や地域住民の図書ボランティアの協力・連携のもと学校図書館の運営は活性化し、成果をあげております。図書予算の拡充については、真岡市立図書館と連携して各学校図書館への団体貸出を行っているほか、図書予算に加えて企業からのご寄附を学校図書購入費に充て、蔵書の拡充を図っているところです。 今回いただいた二点のご意見は今後の参考にさせていただきます。 図書館の利用者カード配布につきましては、申込書や身分証明書の取りまとめ、取扱い方法など、様々な課題について検討を進めております。多くの小・中学生に図書館を利用していただけるよう、努めてまいります。	修正無